

日交研シリーズ A-596

平成 25 年度共同研究プロジェクト

震災復興まちづくりと持続可能な交通

刊行:2014 年 6 月

震災復興まちづくりと持続可能な交通

Community Creation from Great East Japan Earthquake and Sustainable Transport

主査：谷下雅義（中央大学教授）

Masayoshi TANISHITA

要 旨

東日本大震災から3年が経過したが、いまだに26万人を超える方が避難生活をされている。研究代表者らは、震災復興は、ゆい・もやいなどにより支えられてきた集落コミュニティと基盤産業である漁業を支える豊かな水辺環境、の2つの再生が「目標」になると考えてきたが、実際には、「将来世代の命」を守る手段としての「土木工事」ばかりが目立つ状況になっているといえよう。

本報告書では、震災以前から抱えていた人口減少・高齢化を踏まえ、復興計画関連のデータ整理を行うとともに、復旧・復興の過程においてつくられてきた仮設住宅や仮設商店街はどうなっているのか？防潮堤のみならず、避難システムや土地利用はどうあるべきか？どのようなまち・集落がつくられようとしているのか？そして人々のアクセシビリティを確保する公共交通はどうなっているか？などについて整理を行ったものである。

特に、避難システムについて、「逃げ地図ワークショップ」から地区防災計画策定へとつなげる計画プロセスの提案を行っている点が、大きな成果の一つであると考えている。その具体的な展開や高齢者のアクセシビリティの確保、また地方財政への影響などの観点から継続して研究を行う必要がある。

キーワード：東日本大震災、逃げ地図、地区防災計画

Keywords : Great East Japan Earthquake, Relief Map, Disaster Prevention plan